

第 19 回北広島市市民参加推進会議 会議概要

日 時	平成 23 年 7 月 14 日（木）午前 9：30～12：00	
場 所	中央会館学習室	
出席者	委員 (6名)	金川委員、木村委員、上井委員、佐藤委員、山野委員、岩泉委員
	事務局	行政推進課 工藤課長、西沢主査、武田主査、川口主査
	傍聴者	0名（非公開）
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題 (1) 議事録署名委員の指名 (2) 平成 22 年度市民参加手続き評価について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>	
配布資料		

■会議録

審議内容

1 開会 事務局から第 19 回市民参加推進会議の開催を宣言し、6 名の委員全員出席であり、会議が成立していることを報告

【会 長】 最初に議事録署名委員の指名ですが、今回は佐藤委員にお願いします。

前回の 6 月 28 日の会議で、評価のコメントと A B C の評価を行いましたものを、事務局でまとめております。

前回論議したものと整合性は取られていると思いますが、お気づきの点もあるかと思しますので、その点を皆さんで詰めて行きたいと思います。

パブコメの参加人員、時期とか公募委員の人数とか細かい点を見直していきたいと思います。

【副会長】 全体的にバランスのとれた公平性のある評価になっているのかを確認しなければなりません。1 つのポイントは A と評価したものはいいのですが、B や C は何故 B なのか C なのかという理由が担当課に納得してもらえるかということです。委員会の指摘が客観的で合理的であるということが重要で、評価が B や C の場合コメントに適切に記載されているかを重視して見て行きたいと思います。

【A 委員】 それは、コメントに記載されています。

【副会長】 それが適切かどうかということです。

【会 長】 私たちの評価やコメントが市の担当者や市民に伝わるかというのが、副会長の趣旨だと思いますが、その点をもう一度検討して頂きたいと思います。

最初の「次期総合計画の策定」ですが全て A で、コメントは「今年度は、答申書提出のための審議会を 1 回開催しただけであるが、平成 21 年度からの市民参加手続きの実施状況を総合的に判断し評価した。」ですがどうですか。

【A 委員】 総合的に判断したということは、今年以前の市民参加手続きも A だということになりますが、私はこの「次期総合計画の策定」の説明を聞いたり、審議会の審議のやり方等をみたりして、内容が形式的、儀式的に流れており、市民参加の内容から見て良い例とは思っていません。今年以前の評価を A とは思っておりません。

平成 22 年度は 1 回しか開催していないので、その 1 回が A だということです。

【副会長】 それは今回の大きなポイントの一つだと思います。今回の評価は前年度までの市民参加手続きを踏まえて評価したわけではなく、今回の答申のための 1 回の開催が特に問題なかったから A と評価した訳ですよね。

【A 委員】 そのとおりです。去年までの手続きを A とはしていません。

【副会長】 その点が重要で、特に参加人員などで言えば、去年まで参加人員の人数も勘案し評価していて、今年度の参加人員数を見るとその評価に矛盾も出てきています。昨年までのことも含めて総合的に評価していることも結構あると思います。その点が今回見直すポイントかと思います。

【A 委員】 参加人員はそういうこともあります。参加人員は甘く付けています。コメントは「総合的に判断した」ではなく「流れから評価した」でいいです。今年 1 回開催した審議会は良く出来ましたということだけです。

【C 委員】 コメントの後段はいらないと思います。

- 【A委員】 そうですね、後段はなくてもいいです。
- 【会 長】 今回のA委員の「市民参加手続きの実施状況を流れから評価した」でどうでしょうか。
- 【C委員】 昨年までの市民参加手続きは触れる必要がなく、今年は答申提出のための1回の会議であった訳で、Aでなくて全てバー（－）でもいいですが、今年の1回の会議は評価としてAだということです。
- 【A委員】 「1回開催しただけである」でいいと思います。
- 【副会長】 「審議会を1回開催しただけであるが適切である」ではどうですか。
- 【C委員】 しいて言えば「1回の開催であり、評価は難しいが適切であると評価した」ではどうでしょうか。
- 【A委員】 それも必要ないでしょう。何も書かないで「1回開催しただけである」でいいです。
- 【副会長】 「答申書提出のための審議会開催であった」ではどうですか。
- 【C委員】 コメントの欄なので「1回だけの開催なので評価はAとした」とかのコメントでないと「1回開催しただけである」では解説でしかないので、「評価は難しいがAとした」とかの表現でないとコメントになりません。
- 【会 長】 「評価は難しいが」とコメントすると、市民がそれを見て評価するのが難しいものをどうやって評価したのか疑問に思いませんか。
- 【C委員】 答申書提出のためだけの審議会であったから評価が難しいのであって、審議会ですから、公募委員の数だとか開催時期だとかについては適正であったということです。コメントなしに「審議会を1回開催しただけであるから評価はAとした」でもいいのではないですか。
- 【A委員】 1回だけの開催を入れてほしいです。最後ですから良く出来ましたということで「1回だけである」でいいと思います。
- 【C委員】 コメント欄ですから「1回だけであるのでAと評価した」でいいのではないですか。今問題にしているのは、過去の手続きを全てAと評価したわけではなく、今回の1回だけをAと評価したということが分ればいいのですよね。
- 【副会長】 この評価の仕方を全てに当てはめないとダメですよ。あくまで平成22年度の実績ということですよ。しかし、全体を見てみると前年の手続きを勘案して評価が上がっているものもあります。それを調整しないとイケませんね。
- 【A委員】 参加人員はあまりこだわらなくて、甘くてもいいと思います。
- 【副会長】 しかし、担当課や市民がみて納得いかないものになってしまいますので、きちっと評価すべきだと思います。「今年度は、答申書提出のための審議会を1回開催であり適切であった」でどうでしょう。
- 【C委員】 いいと思います。今回の評価は全て平成22年度の市民参加手続きだけを考えればいいですね。
- 【会 長】 次の「平成23～25年度推進計画について」です。これは実施時期がCで、コメントは「パブコメの実施時期が、予算のパブコメと重なったことから、実施時期はCと評価した。推進計画のパブコメは、予算のパブコメの前に実施できるよう計画的に事業を推進すること。総合評価は、その他の項目の実施状況を総合的に判断しAとした。」です。

- 【副会長】 ここで参加人委員数に矛盾が起きています。これについてはパブコメに対する意見が5件2人でAですが、同じく福祉課の「福祉ショップ」も同じ5件2人ですがBです。これは矛盾ですね。前回の評価の際に過去の状況を斟酌してしまった訳です。
平成22年度のみで評価すると決めましたので、これはBになりますね。
- 【A委員】 前回すこし評価は甘くしましよと話しました。
- 【会長】 前回ここはBとかバー(一)という意見も出ましたが、最終的にAとしたのです。
- 【副会長】 それでは、同じ参加人員の「福祉ショップの開設」についての評価はどうしますか。
- 【会長】 「福祉ショップの開設」の評価の時に検討しましよ。その他の評価項目についてはどうですか。
- 【副会長】 実施時期のCは予算のパブコメと重なったという理由がありますね。
- 【C委員】 担当課がそのことを把握してて今後は改善を図ると自己評価していますが、そのことを把握していないものと一緒にせずに、自己評価できちと把握していることを評価してもいいとは思いますが、コメント欄にそのニュアンスを入れることはできないですか。
- 【副会長】 他の事案で明らかにCと付けたものと同列にはしたくない気もします。
- 【C委員】 評価としてAは付けられないが、担当課で分かかっていて改善したいと自己評価している訳ですし、我々も改善してもらうために評価しているわけですから。
- 【A委員】 前回Cという評価で決めたわけですよ。
- 【副会長】 前は最初から最後まで通して評価して終わりましたので、全体を見直すことはしていないです。今回その全体のバランスを見る訳です。
- 【A委員】 バランスが取れていないのならこの評価はどうなるのですか。
- 【C委員】 評価はCでいいです。前回は言いましたが、自己申告したほうが悪い評価になるというのはおかしいですから、自己評価したことをコメント欄に表現できないかということ。
- 【A委員】 評価としては、自己申告にあるなしに関わらず公平な評価をすべきです。問題は前向きに捉えられているかということ。パブコメの時期が悪いのは明らかです。他の部署でも同じケースがあるかもしれませんが、それは報告シートに記載されていないと分りません。しかし、これは実施時期が悪いのですから評価はCです。
- 【C委員】 担当課が実施時期が悪かったことを認識してるとか反省点として自己評価しているとかをコメントに入れられないかということ。
- 【会長】 「パブコメの実施時期が、担当者の自己評価にあるように予算の時期と重なった」としてよろしいですか。
- 【C委員】 実施時期が遅れたのは、手続き上止むを得ない部分もあります。
- 【A委員】 この評価で、今後に向けて市民参加のあるべき姿という共通認識が市役所内にできればいいわけですから、評価はCで問題ないです。
- 【会長】 総合評価はAとし、参加人員については後で全体を振り返ることとします。次に「北広島市地域公共交通総合連携計画の策定」です。これは全てAで「周知PRについてAと評価したが、パブコメの期間が10日間と短い。今後はより市民が参加しやすいように30日間実施するように努めること。」とのコメントです。

- 【C委員】 別に 30 日間と決めなくても、30 日程度とか日数を入れなくてもっと増やすようにというコメントでいいと思います。パブコメは何日以上実施とかの決めはありますか。
- 【副会長】 職員用の手続運用マニュアルに 30 日以上で 30 日間未満の場合は理由を公表するとありますので、コメントは「30 日以上実施するよう努めること」に変更します。
- 【会長】 それでは、評価は全て A でコメントにその旨記載します。次の「学校跡施設利活用計画の策定」ですが、これは全て A でコメントは「学校跡施設利活用という市民に身近な問題であることから、早い段階でワークショップを開催するなど市民の声を取り入れて、それを審議会に反映させる方法もあった。23 年度に予定している意見交換会やパブコメ以外にも、シンポジウムなどを開催し地域の人たちの声を聞く機会を設けてほしい。」です。
- 【副会長】 コメントの「機会を設けてほしい」という表現は委員会が要望するという形なので、「機会を設けることが望ましい」という表現はどうでしょう。
- 【A委員】 更に言うと、もっと初期段階でパブコメも実施すべきだったと思いますので、そのようなことも書いても良かったと思いますが、この表現でもいいです。
- 【会長】 22 年度に開催した審議会の報告書を市民に公開し、意見を集約してから検討するという趣旨ですか。それともこの報告書が最終版ですか。
- 【D委員】 報告書は 5 つの方針と 13 の項目になっており、それを参考にして市で計画を策定します。その計画策定段階では住民説明会やパブコメを実施します。
- 【副会長】 コメントでは、シンポジウムと具体的に言わないで広く市民の意見を聞く場を設けることを望みたいとかの表現はどうでしょう。
- 【D委員】 3ha と広大な土地利用ですので、ホームページで企業にも提案を求めます。
- 【副会長】 後段のコメントは「幅広く地域の意見を聞くことを期待したい」とし、前段はこのままでいいと思います。
- 【会長】 次は「第 2 次きたひろしま男女共同参画プランの策定」ですが、評価は B が二つです。先程議論のあったパブコメの参加人員が 1 人 9 件で評価は B です。コメントは「参加人員については、広報で 2 ページを使い意見を募集したにも関わらず、1 人しか意見が出ていないことから、評価は B とした。それに伴い、1 人の意見では反映・効果が乏しいことから、同じく B と評価した。委員の構成が男性 2 人女性 7 人という構成比率は、男女共同参画の観点から望ましいとは思われない。総合評価は、市民参加の周知方法などを勘案し A と評価した。」です。
- 【副会長】 パブコメは意見が 1 人 9 件、公募委員は 9 人中 2 人で傍聴者なしで、参加人員の評価が B です。パブコメは市民をどれくらい巻き込んだかという指標がありますので分かりやすいです。しかし、先程の推進計画はパブコメが 2 人 5 件で他の市民参加手続きなしで評価は A ですので、それとのバランスです。
- 【C委員】 パブコメは他の市町村でも意見が少ないですが、それを良しとはしないで、市民がもっと参加するようにしないといけないと思います。ですから意見が 0 件の場合の評価は C でいいと思います。肯定的な意味で 0 件の場合もあるでしょうけど意見 0 はだめでしょう。意見 1 人が B で 2 人以上は A がいいかは判断つきませんが、パブコメへの参加人員が少ないというのを認識してもらい、もっと参加人員が増える努力をして

もらうと言う意味で、厳しく評価してもいいと思います。

【D委員】 パブコメについては前回前々回も議論を重ねていますので、一定の結論は出ていると思います。その議論を踏まえた上で評価しないと難しいことになります。

【副会長】 その議論に基づいた評価ができていくか相対的に見ていくということですから、推進計画のパブコメは参加人員が2人5件だけでAと評価しました。そこでこの男女共同参画プランの評価Bを見たときおかしいと思われないかということです。

【A委員】 1人9件というのは市民参加としては良くないです。

【D委員】 これについては、公募委員が再任ということを検討しましたが、パブコメが1人9件ではダメと言うのなら、具体的にこのパブコメの手続き上何が悪いから参加人員が少なかったのかダメという説明が必要になるのではないですか。

【A委員】 ですから、参加人員についてそんな辺りで考えましようと言ったのです。

【副会長】 意見が5件2人はAで、9件1人、公募委員2人いるのにBという評価について、説明を求められたときどのように説明しますか。

【D委員】 前回、公募委員が再任であることを考慮しBとしました。

【副会長】 そうであれば、他の評価とバランスが取れないですね。

【A委員】 バランスを取ると言うのなら、パブコメの形態はどう、参加人員何人はA、このような事情がありましたというのを数値化しないとできないです。

【副会長】 事情はコメントに書かないと分かりませんね。公募委員が再任の件は書きましよう。ただ、他の審議会の公募委員が再任かどうか分かるのでしょうか。

【事務局】 再任の有無について各課に指示していませんので、公募委員に再任がいるかどうかは報告シートからは分かりません。

【C委員】 ところで、再任はなぜだめなのでしょう。

【D委員】 どのような理由で再任になったかは分かりませんが、公募委員ですのでより広い参加ということから再任より新たな委員のほうが望ましいと思います。

【C委員】 公募枠3人で応募2人ですから、1人は応募者ではなく市役所が選任した委員だということのほうが問題ではないですか。パブコメと同じで公募したのに応募者が少ないですから、それは市民の意識の問題ですが、市民参加条例もできて間もないことで甘めに評価するとしたら、パブコメの参加人数が少ないことを特に問題にすることもないと思います。再任が問題ではなく応募が少ないというほうが問題ではないですか。

【副会長】 再任について全部をチェックしていませんから、評価に反映するのは難しいですか。

【A委員】 応募2人のうち再任が1人で、再任が多いわけではないですから、パブコメに意見がもっと出てきたほうがいいという議論ですよ。

【副会長】 市民参加を評価するうえでは、複数の手続きをとっている方がいいですよ。その中で審議会の委員にちょっと問題があったと指摘があった場合どの程度マイナスにするのか。パブリックコメントしか実施していなくて、しかもそれほど参加人員も多くないのに評価が高いというのは、複数の手続きを取った担当課が腑に落ちないのではないのでしょうか。市民参加にどっちが努力をしたのかということ言えば難しい問題です。総合的に判断するということになると思います。

【A委員】 全体的に客観的に評価ましようと言ったわけですから、参加人員はBでいいです。

- 【C委員】 委員の再任についてはどうしますか。
- 【A委員】 書かなくてもいいことです。
- 【副会長】 それでは、「平成 23～25 年度推進計画」のパブコメの意見が 5 件 2 人も A でいいのですか。
- 【A委員】 前回までにコンセンサスはとれているのですから、1 件ずつ見直さなくても気がついたところだけ議論すればいいのではないですか。
- 【副会長】 問題はパブコメの件数が同じでも参加人員の評価が A と B がついています。それが「平成 23～25 年度推進計画」と「福祉ショップの開設」とこの「男女共同参画プラン」です。
- 【D委員】 この男女共同参画プランの参加人員が B となったのは、審議会の男女比が合わないというのが大きな要件だったと思います。福祉ショップはワークショップを開催したとなっているが、実際は委員さんに用紙を配っただけという事が評価の要因でした。それらを勘案して参加人員が B という評価でした。
- 【A委員】 参加人員が多い少ないではなくて、全体を見て A B C を決めればいいことで、細かいことは不要です。
- 【副会長】 そうなると、手法を多く取り入れるほど失点が多くなるということにもなります。
- 【C委員】 パブコメだけより審議会もあれば、市民参加の人数が増えるので逆にいい結果になることもあります。複数の手法を取れば取るほど、参加人員は多くなります。
- 【副会長】 今回の評価ではそうはなっていません。「平成 23～25 年度推進計画」の参加手続きはパブコメだけで 5 件 2 人、「福祉ショップの開設」はパブコメ 5 件 2 人と委員に持ち回りで意見を聴取したのに評価は B です。
- 【A委員】 それは結果です。この評価で皆さん了解しましたよね。
- 【C委員】 そう言われると、確かにバランスは若干気になりますね。
- 【A委員】 それを言い出したら、評価はできません。
- 【副会長】 矛盾があるのはこの 3 件だけです。今の議論ですと、手法の数は重要ではなく、その中の 1 つでもちょっと問題があれば評価は B になります、それで皆さんの合意できれば、それでもいいです。
- 【A委員】 一つでも至らない点が分かれば B とか C でいいのです。我々が分からなくて A になっているものもあるかもしれないけど、それは割り切りましょう。
- 【C委員】 「平成 23～25 年度推進計画」の参加人員の評価は B にしたほうが、分かりやすいですね。
- 【副会長】 前回の評価のときに最初は甘めに評価していましたが、後半のほうは厳しくなっていたのですね。それを今日調整し整合性が取れるようにするという事だったと思います。
- 【会 長】 前回も B とかバー（一）とか意見がありましたが、A にしましょうとなったのです。
- 【副会長】 やはり参加人員が 5 件 2 人は多くはないですから、努力してほしいということで B のほうが全体のバランスが取れます。
- 【会 長】 今回全体の流れの中で B がいいと思いますが、皆さんどうでしょうか。
- B でいいという意見多数あり —

【会 長】 それでは、「平成 23～25 年度推進計画」の参加人員はBとします。男女共同参画プランの策定については、評価、コメントもこのままでいいですか。

－ 異議なしの声多数あり －

【会 長】 次に「当初予算の作成」ですがこれは全てAでコメントは「周知PRについてAと評価したが、パブコメの期間が10日間と短い。今後はより市民が参加しやすいように30日間実施するように努めること。」です。

【副会長】 パブコメの期間がやや短いですね。

【A委員】 24日間ありますから、いいのではないですか。

【C委員】 条例では原則30日間以上ということです。

【会 長】 コメントは「パブコメ期間が24日間とやや短い」とすることでいいですか。

－ 異議なし の声多数あり －

【会 長】 次に「市の広報活動に関するアンケート調査」ですが、これも全項目Aでコメントは「アンケートの調査対象が20歳以上であるが、広報は市民参加を促進するもっとも基本的なメディアであることから、20歳未満の意見も取り入れる手法を検討すること。」です。

【A委員】 市民参加条例の年齢は18歳としたので、18歳以上に直したほうがいいですね。

【副会長】 20歳未満のままでもいいのではないですか。

【A委員】 20歳未満なら5歳でも6歳でもいいのですか。

【C委員】 ケースバイケースですけど青少年の市民参加という理念もありますから、18歳以上とした場合、青少年の市民参加を促せなくなります。

【会 長】 それでは、コメントもこのままでいいですね。次に「地域防災計画及び水防計画の改訂」です。これはかなりBが多くコメントは「専門的な要素が強いとしても、パブコメに対する意見が1件もないことから、参加人員はBと評価した。周知PRについては、市民生活に直結する防災計画という性格上、町内会回覧などの手法も取り入れるべきと判断し、Bと評価した。審議会についても、専門家以外の市民公募委員を入れるなど、市民の声を聞くという市民参加の手法を取り入れることも検討すること。総合的に、市民参加手続きとしては改善なり工夫が必要であり、Bと評価した。」ですがどうですか。

－ 異議なしの声多数あり －

【会 長】 評価、コメントとも変更なしです。次の「第2次環境基本計画」ですが、実施時期がBで他はAで総合Aです。コメントは「実施時期については、パブコメの実施時期が遅く全体的にスケジュールが窮屈になった感がありBと評価した。総合的には、複数の市民参加手続きを取っておりAと評価した。」です。

【C委員】 これも自己評価に書いてありますね。推進計画と同じように担当課の自己評価にあるように記載したほうがいいですね。

【D委員】 これはパブコメの実施時期が遅いというわけではないです。自己評価は日程的な制約により、関係機関との意見交換会が1回に留まったということです。

【副会長】 パブコメも遅いですよね。

【D委員】 自己評価でそうは書いていませんね。

- 【C委員】 パブコメは遅かったのですか。
- 【D委員】 パブコメも32日間実施していますし、書くとなれば計画を立てるスケジュールが窮屈になって、関係機関との意見交換が1回しか取れなかったということですね。
- 【C委員】 意見交換が1回しか出来なかったことを、実施時期の項目で評価することが妥当なのかですね。スケジュールの問題を評価では実施時期と捉えるのかということです。
- 【副会長】 市民から意見を収集する時期が全体的にタイトになったということですよ。余裕を持って意見収集できなかったわけです。
- 【C委員】 1つの手法の時期で判断せず全体的にということですから、アンケート、審議会、パブコメと全体的にはBとして指摘するほどではないですよ。スケジュールの問題ですから、すべてAにして、コメントでもう少し余裕を持って多くの市民から意見を集めるように努力することというようなことでどうですか。
- 【副会長】 コメントは「全体的にスケジュールが窮屈になった感があるが、総合的には複数の市民参加手続きを取っておりAと評価した。」でいいですね。次に「生ごみの分別収集」です。これも全部Aです。コメントは「市民生活に直結する問題なので、説明会、アンケートだけではなく、より広く市民の声を反映させるため、パブコメを実施する方法もあった。」です。
- 【A委員】 実際にはパブコメ的な事はやっているのです。それが自己評価に書かれていないから分からないのです。
- 【会 長】 クリーントウン北広島という小冊子を配布していますね。
- 【副会長】 たまたまA委員がそれを知っていたので分かりましたが、報告シートに書かれていないと分からないですね。そうだと評価ができないですね。
- 【C委員】 やはりパブコメは実施したほうがいいですよ。このままの評価でいいと思います。
- 【会 長】 パブコメを実施したほうが良かったと書きますか。
- 【B委員】 パブコメも内容によっては早い時期に実施するのはいいことですが、このように住民の関心が高い問題で、パブコメより市民説明会とかワークショップという住民参加の形態として高いレベルを実施しているから、特にパブコメについてはコメントしなくてもいいと思います。
- 【会 長】 コメントするとしたら、早い時期にパブコメも実施したほうが良かったということですね。
- 【C委員】 説明会の情報が入って来ないとか、若い世代には住民説明会みたいなものを敬遠する傾向がありますから、パブコメとかいろいろな手法を取ったほうが、ごみの分別に関心が高くなるかもしれませんし、パブコメは費用もあまりかからないので、あえてやらなくてもいいということにはならないですよ。
- 【会 長】 早い時期にパブコメを実施する方法もあったということでもいいですね。次に「北広島福祉ショップの開設について」です。これはB B B A Bで総合Bとなっております。コメントは「パブコメの実施時期からショップの開設まで期間が短く、実施時期周知PRとも評価はBとした。運営に関しては、市民の声を取り入れ、健全な運営が図れるよう努力して欲しい。パブコメ以外に検討委員会の委員に持参説明しただけであり、しかも結果の公表もないことから、市民参加手続きとしては改善すべき点があり

評価はBとした。」です。

【副会長】 パブコメの参加人員は推進計画と同じ参加人員ですが、委員に持ち回りで意見聴取とか結果の公表がないということでBと評価しました。ここでは参加人員の評価は量だけでなく質も評価していますね。

【A委員】 この委員会は福祉関係の人たちだけで話し合っ、短期間でやったような感じがします。

【会長】 保健福祉検討委員会だけで決めて、市民を巻き込んだという感じがしません。運営に関してもそうなのでしょうか。

【事務局】 この委員会は計画策定の時の委員会で、運営は小規模作業所とか障害者関係の団体で構成する運営委員会です。

【副会長】 有識者ということで、福祉部会の委員に聞いて回ったとなつていますが、その成果の公表もないですね。ずいぶん急いでやったという感じはしますね。

【C委員】 運営に関して、今後市民の意見を入れるという要素はないのですね。

【副会長】 運営を無期限で委託しているわけではないですよ。

【事務局】 障害者関連の代表者が集まって、将来的には障害を持つ方が自立して生活できる方向に持っていくとか活動の場を提供するというこ、障害を持つ方に理解のある団体の協議会で運営しています。

【会長】 ではこのままでよろしいですね。次は「ふれあい温泉入浴助成事業」です、これはすべてAでコメントも特になしです。

【副会長】 パブコメは15件7人の意見がありました。

【会長】 これも、このままでよろしいですね。次の「第5期介護保険事業計画策定」です。これもすべてAでコメントも特になしです。

【A委員】 これから審議会をしますよね。H21・H23の欄にそれが載っていないのです。その審議会につながるためのアンケート調査ですから、それを見てよくできましたと評価できるわけです。

【C委員】 審議会の時期とか回数は確定しているのですか。

【事務局】 担当課からは報告がきていないため、わかりませんでした。

【A委員】 報告がないから記載していないということだと、手続きの継続性が見えません。

【事務局】 審議会の開催時期等については、確認しておきます。

【会長】 コメントに何か書きますか。

【副会長】 貴重なデータを収集したアンケートですから、ぜひ今後活用してほしいと入れてもいいかなと思います。

【A委員】 活用されていますよ。ただアンケートは3年に1回ですよ。

【D委員】 法律で3年ごとに実施と決められています。

【A委員】 コメント欄は「特になし」としますか。それとも空欄にしますか。

【副会長】 空欄だと記入漏れかと思われま。

【会長】 アンケートとか審議会とかコメントで触れなくてもいいですか。

【A委員】 必要ないです。

【C委員】 前回は言いましたが、立派なアンケートですがここまで費用を掛けなくてはならな

いのですか。国からの補助金とかありますか。

【D委員】 介護保険、障害者計画、子どもの計画は3年に1度見直すことが法律で定められています。

【C委員】 その費用は国からですか、市で負担しているのですか。

【D委員】 市の負担です。交付税での措置等があります。

【C委員】 市民感覚から言えば、アンケートに150万円も掛けたのかという意見もあるかと思っています。他にもいろいろ経費が掛かっていますが、これは止むを得ないのですか。

【副会長】 サンプル数が2,400件あり、入力、分析、報告書作成など内部で作成するとしたら、やはり人件費も相当かかりますね。

【会 長】 評価はオールAでコメントは特になしとします。次に「北広島市東の里地区遊水地利活用計画の策定」です。コメントは「長期の計画ではあるが、計画の進行に合わせて適切な市民参加手続きをとるよう努めること。反映・効果は、現時点では評価対象とせず(バー)とした。」です。これは10年も掛かる計画で市民の意識も薄いと思われるのですが、災害に対する市民の意識を高める努力もしてほしいですね。

【D委員】 国の方針に遊水地を市民還元したいということがあり、それを受けてどのように考えていくかという、まだまだ先の大まかな計画を策定しようという段階です。

【会 長】 この評価でいいですね。次は「街区公園整備事業」です。これはオールAです。コメントは「評価はAとしたが、ワークショップの周知方法が町内会回覧のみである。全市的な周知も必要であり、周知方法と結果の公表に工夫が必要である。周知方法にBという意見もあったが、最終的にAとした。」です。

【副会長】 町内会回覧で十分だという意見と全市的な周知も必要ではないかと意見が分かれましたが、結局Aと評価しました。この周知方法だけで今後もいいのかですね。

【C委員】 コメントにその辺は書いてありますし、今までの公園整備の実績もあることから、これで良いとの判断でしたね。

【会 長】 それでは、評価、コメントはこのままとします。次に「雪対策基本計画の策定」です。これもオールAです。コメントは「市としては初めての雪対策基本計画であり、審議会での活発な議論を望む。また、アンケート、審議会だけでなく、日頃市民から寄せられる意見を計画に反映させる手法も取り入れること。」です。

－ 評価もコメントもこのままで良いとの意見多数あり －

【会 長】 それでは、次の「商工業基本計画の策定」です。これはACBA(一)Bです。コメントは「パブコメの意見が0件で、審議会、ワークショップの結果が公表されていないことから、市民参加手続きとしては、適切とは言い難い。これからでもいいので、審議会、ワークショップの結果を公表すべきであり、結果が公表されていないということで反映・効果は評価できないとして(バー)とした。市民参加条例の理念に沿った内容とは言えず、総合評価はBとした。」です。

【副会長】 コメントが少し長いので整理しましょう。「結果が公表されていないということで、」の部分を削除しても意味は通じますね。

【C委員】 周知・PRをCとした理由は、結果を公表していないという理由でしたね。パブコメはホームページに載っていますが、審議会とワークショップ(懇話会)は開催された

ことも市民が知らないのですね。

【副会長】 審議会、ワークショップは傍聴席を設けただけで、結果も公表されていませんので、これを良いと評価することはできませんね。

【A委員】 市民参加により意見を求めるという手続きを取らずに、内輪で計画を策定しただけです。市民参加条例に書いてある審議会や懇話会を開催したと言っていますが、オープンになっていません。

【副会長】 条例に沿って実施したとは言えません。委員がどのような方かも分らないです。評価もコメントもこのままでいいと思います。

【会長】 コメントは、先程一部削除するとなりましたので、「パブコメが0件で、審議会・ワークショップの結果が公表されていないことから、市民参加手続きとしては適切とは言いがたい。これからでもいいので、審議会、ワークショップの結果を公表すべきであり、反映・効果は評価できないとして(バー)とした。市民参加の理念に沿った内容とは言えず、総合評価はBとした。」でいいですね。次に「水道ビジョン策定」ですが、これもオールAで、コメントは特になしです。

【副会長】 アンケートは、サンプル数が少ない割には費用が掛かっていますね。

【A委員】 審議会の委員はどのようなメンバーですか。

【D委員】 学識経験者、地域代表などで、公募委員も入っています。

【会長】 それでは、評価、コメントはこのままでよろしいですね。これで全件評価が終わりましたが、総合的に何かありますか。評価を2か所訂正し、コメントも少し手直しがありました。それで今後の作業をどのように進めますか。

【副会長】 先程費用のことが出ましたが、最後の水道ビジョンですが、アンケートの委託料がサンプル数1,500件で82万円ほど掛かっています。アンケートはサンプル数が費用に大きく影響しますが、同じように高齢者の第5期介護保険事業計画策定のアンケートが65歳以上の市民3,000人で86万円です。水道部門のスタッフは何人いますか。外注しないとできないのでしょうか。

【D委員】 計画策定の担当部門は、主査1名とスタッフ2名です。水道は別会計ですので、市役所の総務・議会・人事・会計などの業務をこの3人で担当しています。

【A委員】 水道のアンケートの内容はどのようなものですか。

【D委員】 水質などから、将来的な需要見込みや料金などだと思います。

【副会長】 同じサンプル数でも掛かった費用に幅があるので、費用対効果なども今後見て行く必要がありますね。総合的なコメントのなかで、努力目標としてアンケートの委託に掛ける費用の軽減についても触れてみたいと思います。

【D委員】 アンケート費用が委託料のうちどれくらい占めるのかは、この報告シートでは分からないですね。

【A委員】 高齢者などはある程度分かりますが、水道は素人には分らないですね。

【副会長】 環境基本計画のアンケートは、主に郵便料でほとんど費用が掛かっていません。同じアンケートでもこれくらい費用に差があることを認識しないといけませんね。

【A委員】 介護保険料の料率とか水道料金を決めるなどと違いますので、一概に高いとか安いとかは決められないのではないですか。

- 【会 長】 副会長の指摘は、介護保険事業計画のアンケートがサンプル数 3,000 件で 86 万円に対し、水道ビジョンのアンケート費用はサンプル数が半分の 1,500 件で 82 万円ということですね。
- 【副会長】 実施費用という評価項目がありますが、これは何を見るのかまだ決まっていないと思いますので、今後注意するとしたらこの点も考えなければならぬと思います。
- 【A 委員】 これは北広島市がそうだとということではありませんが、アンケート調査を業者に丸投げで作ってもらおうと高いものになりますよね。そうであれば費用の無駄使いですね。そういうところも見ていかないとなりませんね。もちろん市の担当者が全部出来るわけではないですから、委託も当然あると思いますが。
- 【会 長】 一応評価がすべて終わりましたので、この評価の報告書はどうなりますか。
- 【C 委員】 総合評価的なものを各委員が持ち寄ることになっていましたので、今日持ってきています。
- 【副会長】 前々回の会議のときに、会議の全体意見ではなくそれぞれの委員の意見を報告書に掲載するというにしましたので、それぞれ書いてきたと思います。
- 【A 委員】 委員会としての総合評価として出したらいいのではないですか。それぞれが勝手なことを書くのは良くないでしょう。全体コメントに今評価したシートを付けて報告すればいいので、あまり細かいことは必要なく簡単でいいと思います。
- 【副会長】 評価の結果はこの評価シートが掲載されることでいいですよ。報告シートは基本的には出さないで、求めがあれば出すという事でいいですか。
- 【A 委員】 総合的なものは箇条書き程度でいいでしょう。
- 【副会長】 私たちも初めての評価作業でしたので、若干甘めの評価だと思います。そこで評価に伴う委員の気持ちも書いたほうが親切ではないでしょうか。試行錯誤の中で評価したというようなことです。
- 【A 委員】 それは不要です。今後につながるような評価をしましただけでいいです。
- 【副会長】 前々回までの会議では、個人の意見を掲載するということでした。
- 【B 委員】 個人の意見を載せるかは議論にもなりましたし、今日評価しながら議論したことを会長がまとめて報告することでいいです。参加人員とかは委員のなかでも評価が分かることもありましたから、参加人員はこのような基準で評価しましたというようにまとめてはどうですか。ただし、個人の意見を載せるということでしたので、一応自分の意見は書いてきています。
- 【会 長】 B 委員からは、意見書をいただいております。
- 【副会長】 集約して書くとすれば、文言の調整に結構時間がかかります。各委員のニュアンスを伝えるために全員の合意を得るとするのは、時間的にも難しいですね。委員名を出すか出さないかは別として、各委員の意見を掲載するというのもありだと思います。
- 【A 委員】 委員会としてまとめて出せばいいことで、個人の意見は必要ないです。
- 【副会長】 委員会として参加人員の考え方などは総合評価として出しますが、評価以外のこともこの会議ではやっていますので、任期中の思いはそれぞれ違うと思います。そのことを皆さんも書かれていると思いますし、このことは前回皆さんで合意しています。
- 【A 委員】 合意はしていないですし、それは必要ないと思います。委員会として出せばいいの

です。感想みたいなものは必要ないです。

【C委員】 各委員の意見を載せるとまでは決めてなくて、それぞれが書いてくると言うことだったと思います。

【会 長】 皆さんの書いてきたものを集約して載せるのか、それぞれの意見を載せるのか、皆さんどうでしょう。

【A委員】 それをA4版1枚くらいにまとめて、総評として乗せればいいでしょう。

【C委員】 各委員の意見をつけるというのならいいと思いますが、各委員の意見を取りまとめて総評にするというのは、時間的なこともありますし要らないと思います。

【A委員】 今回の委員会の総評を、会長が作成して皆で確認できればいいです。

【B委員】 私の意見書は市長にそのまま報告するという形式ではなく、今後の市民参加についての考えなどを書いているだけです。

【D委員】 3回しか会議に参加していないのですが、今回評価した平成22年度市民参加手続きの評価についての報告書ですよね。それであれば、このように評価したものを提出しますので、これに基づいて今後十分留意して執務を行ってくださいということだと思います。

【A委員】 行政だけでなく市民に対してもそうです。委員会としては2年間やってきて、このような評価になりましただけでいいと思います。

【D委員】 この評価以外の市民参加推進会議や市民参加の在り方についてというような報告書は、別に考えることだと思います。

【A委員】 市民参加条例があって、それに基づいて市が市民参加手続きを行っているのですから、評価と結果を報告すればいいのです。市民参加条例がどうあるべきかという検討とか見直すとかをやっていただければいいのですが、そうでなければ各委員の意見をそれぞれ書く必要はないです。

【D委員】 評価の報告についてはそのとおりだと思います。

【副会長】 それでは評価と分けて別に推進会議の報告書を出しますか。

【A委員】 必要ないです。

【副会長】 去年の報告書と連続性を持たせないというのなら、それでもいいと思います。去年は総合的な報告書として、会議の中で扱ったことを市民に見せるために報告書を出しました。今年は評価しか出さないというのならそれでもいいですが、他の委員会の報告書をみると評価と委員会の報告があります。

【会 長】 副会長が言ったように、評価の報告とこの2年間推進会議の中で議論したことを報告するという事についてどうですか。

【A委員】 推進会議の報告は不要です。

【B委員】 私も市長にその報告は要らないと思います。

【副会長】 他の委員会では、評価した報告とは別に委員からの提言として箇条書きのように書いているものもあります。

【A委員】 確かに最後にその会議での意見みたいなものを書いている報告書はありますが、不要だと思います。

【副会長】 確かに時間的にも厳しいので簡単なものにするという方法もあります。

- 【D委員】 この評価をするに当たって、いろいろ様式を検討し今まで議論されてきたわけですよ。
- 【副会長】 推進会議は評価だけではありません。
- 【D委員】 そうですよ。それであれば、この推進会議は今年どのような進め方や報告書を出すということを最初に決めていなかったのですか。市民参加手続きの評価をすると決めてから、評価した後どのようにするのかということです。
- 【副会長】 いろいろ精力的に議論をしてきましたが、評価シートを決めるのに相当時間を費やしたのです。
- 【D委員】 それであれば、今年はこの評価シートで市民参加手続きについて評価しましたという報告でいいのではないですか。それ以外に議論したことがあれば、その報告もありますよね。
- 【副会長】 4月からは評価の議論ですが、その前には市民参加の推進策とかいろいろ議論しました。
- 【C委員】 実質的には結論までには至っていません。
- 【A委員】 条例の15条に市民参加推進会議が規定されています。その会議で市民参加手続きがどのようにされているか評価しました。これだけでいいと思います。
- 【C委員】 現実的にはこの評価だけですから、今回の報告は平成22年度市民参加手続き評価報告書でいいと思います。
- 【副会長】 推進会議の報告書は必要ないということですね。
- 【C委員】 会長に評価の総括を書いてもらって、この評価シートを付ければ十分です。
- 【副会長】 評価の検討に時間を要したことから、推進会議で他の議論は十分出来なかったということも、市民に分かってもらうために総括に入れてもらいますか。
- 【A委員】 それも必要ないです。何を書いても読んでもらえないです。
- 【C委員】 前回の報告書も一生懸命作った割には、何に役立ったのか自分でも疑問で徒労に終わったのではないかとも思ってしまいます。この推進会議自体の委員数や市の中での位置づけをここで話したって何も決めることが出来ないし、活かされることが皆無です。この会議は市民参加手続き推進会議になってしまいました。条例の改正についてポイント性などの推進策を提案しても、それは将来的に議論すればいいのではないですかということで、考える気もないという会議になっていました。
- 【A委員】 考えていましたよ。
- 【D委員】 異なる意見があるのは当たり前ですよ。
- 【B委員】 C委員の意見も分かります。市民参加条例を作って市がそれをどのように推進してきたのかということについて、一定の評価したことは大きな意義があると思います。それが市民参加手続きの議論をしてきたことだとも思いますが、それだけでなくもっと市民参加を高めるためにどうすればいいかという議論については不十分で、その視点が欠けていたと思っています。
- 【A委員】 そのとおりだと思います。いろいろ意見もありますが今年度の推進会議の報告書はこの評価でいいと思います。そのほかに何かテーマをもって審議会方式で進めてきたとは思っていません。

- 【会 長】 それでは、私が報告書を作成するというので、その確認はどうしますか。
- 【事務局】 他の委員会のケースで言えば、評価がまとまりますと最終的に委員長が報告書を作成し、それを他の委員に確認してもらい市長に提出という流れです。
- 各委員の意見としては、評価する際にこのような意見がありましたというように、評価とは別に報告書を提出ということをしています。
- この会議でも、評価が終わりましたので、会長に総括的なものを作成してもらい、各委員が確認し、それを評価シートの表書きとして市長に報告するというのでよろしいですか。
- 【副会長】 各委員からの意見を会長にお渡ししますので、それを参考にしながら会長に総括をお願いします。
- 【会 長】 少し時間をいただいて、今月の25日頃までに事務局に提出します。
- 【事務局】 会長から総括をいただきましたら、各委員に確認をお願いすることにします。
- 【会 長】 それでは、議題2の平成22年度市民参加手続きの評価については今話した通りとし、続いて議題3の「その他」です。
- 【C委員】 電話で事務局をお願いしてあった件ですが、FMメイプルでの広報の件ですがどうなりましたか。
- 【事務局】 担当課に確認しましたが、1件認めると全課からの要望に対応することになり、枠の問題もあり難しいということです。
- 【C委員】 枠がないというのと難しいでは意味が違います。きたひろ再発見に市民参加の広報を流せる枠がないということですか。
- 【事務局】 その通りです。
- 【C委員】 意味が分りませんね。毎回放送されているわけですから、その枠はどうなっているのですか。1年間のスケジュールとか内容が決まっているのですか。
- 【事務局】 担当課が持っているテーマのなかで放送しているので、各課からの要望には現時点では対応していないということです。
- 【副会長】 ちょっと今話している内容が分りませんので説明願います。
- 【C委員】 先日事務局をお願いして、市民参加推進会議の委員募集を、FMメイプルのきたひろ再発見でPRできないかということです。委員の募集状況はどうなっていますか。
- 【事務局】 まだ締め切りまで時間がありますが、手元に5名と問い合わせが数件です。
- 【C委員】 募集人員が5名ですから、それは超えていますね。北海道新聞などにリリースはしていますか。
- 【事務局】 市の広報、ホームページでの周知です。新聞社へは広報からの情報です。ホームページは、今まで各担当課が委員募集を行っていたものを、今年から委員募集のページが出来ました。
- 【C委員】 できれば、直接北海道新聞の記者をお願いして下さい。それとホームページを見て気がついたのですが、推進計画の中で平成23年度に市民参加推進会議の運営と市民参加フォーラム開催に予算が付いています。推進計画の中にこれを載せることをこの推進会議には全く知らされていませんでした。これはこの推進会議とは関係ないことなのではないでしょうか。

- 【会 長】 推進会後の中では、フォーラム的なものを開催したいという話は何度か出ましたが、推進計画に載せるという話は聞いていません。
- 【事務局】 フォーラムの開催は計画しているが、内容については今後検討するというように聞いていましたので、市民参加推進会議の中でパネリストを招いて討論会をすとか、市民協働推進会議の補助金の公開プレゼンテーションに充てるなどの案を検討しています。どのような形になるかはこれからの作業になります。
- 【C委員】 この推進計画が出る前に、市民参加推進会議とコミュニケーションを取るべきだったのではないのでしょうか。会議の中でフォーラムとかシンポジウムを開催したいと議論していたのに、決まったあとでしかもホームページで市民参加推進会議の委員が知ったというのはどうなのでしょう。
- 【D委員】 予算が決まった時点で、お話しすべきだったと思います。その部分の手続きが欠けていたのであれば、市の不手際ですので謝ります。
- 【副会長】 今年度当初に、1年間のスケジュールとして考えなければならないことだったのですが、評価に集中した部分もあります。
- 【C委員】 公募委員が参加している審議会なども事務局が市の職員ですから、審議会サイドと市（事務局）サイドと分かれて物事が進んでいるという印象が強いです。極端に言えば事務局も推進会議の中で発言があつていいと思っているくらいです。もっとお互いにコミュニケーションを図り、一緒に作り上げるという方がスムーズに進められると思います。
- 【会 長】 そのほかに意見等ありませんか。
- 【副会長】 任期の関係でこのメンバーではこれが最後だと思いますので、あとは報告書を皆さんで確認して、最終的に市長に報告するというでいいですね。
- 【会 長】 会議としては今日が最後になります。皆さん長い間ご苦労様でした。

以上この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は次のとおり署名押印する。

平成 年 月 日

議事録署名委員

議事録署名委員